

令和元年度 第2回学校評議員会議概要

- 1 日時 令和2年2月5日（水）10：45～12：30
- 2 参加者
評議員 大学教授、同窓会役員、後援会理事、PTA会長、有識者
学校側 校長、教頭、事務長、藤田（教務部主任）、柁木（生徒指導部主任）
山口（進路指導部主任）、成田（教務部、記録）

◆校長挨拶

評議員の皆様方、本当にありがとうございます。今年は暖冬で雪が少ないと言われていたのに、今日に限ってたくさん降りました。大変足下の悪い中、ありがとうございます。私から挨拶ということで、本来であれば1回目の会議でお伝えすればいいのですが、学校評議員とはなんぞやということと、本校の今年の取り組みについての2点を簡単にお話いたします。学校評議員というのは学校教育法施行規則の第49条に記載がありまして、「学校の教育目標や計画、教育活動の実施、学校と地域の連携の進め方等について意見をすることができる。」とあります。ともすれば、学校というのは閉鎖的で何をやっているかわからないとか言われることもあるのですが、積極的に開かれた学校として外部の方々をお招きして、様々な貴重なご意見をいただければ、より一層学校の教育活動が充実するのではないかと考えております。

それから、本校の今年度の取り組みについて、年度初めにも言った記憶がありますが、本校の教育目標は自律・誠実・進取の3つです。今年度、何人かの先生方をお願いして、3つの教育目標に対して、それに伴う力を考えてくれませんかお願いしました。自律という教育目標に対して、どうなれば自律をしたといえるのか、検証するための材料は、こういう力がついたから自律という教育目標につながっているといふようになる。そんな力を考えてくださいということで、8つ設定してもらいました。自律に対しては「自己管理能力」、「実行力」、「発信力」。誠実に対しては「傾聴力」、「協働力」。進取に関しては、課題を発見する力として「発見力」、「探究力」、「想像力」。これら8つの力を子ども達につけさせることで、本校の学校目標に合った生徒を育てるという組み立てで進めて参りました。生徒には自己評価もさせています。1年経ってどうなるのか、楽しみでもあり不安でもあるのですが、教育活動に関して評議員の皆様から貴重な御助言・御指導、或いはアドバイスを頂ければと思っています。今日はどうぞよろしく願いいたします。

◆配付資料確認、説明

◆教職員・生徒・保護者アンケート結果について

<教頭> (1) の学校運営全般は、評価の平均が3を超えているものがほとんどになっている。その中で、「14 職員の休憩室が利用しやすい状態にある」という項目が2.8となっている。これは全体的に学校が手狭ということもあり、先生方がゆったり休むところはあるが、なかなか活用しにくいのが現状である。

次の教務部は、「15 学校の教育目標や重点目標に合った教育課程が編成されている」

の項目が、0.3と低くなっている。下がった理由としては、今年度から本校は3学期制を取っているが、昨年度までの2学期制からの移行がうまくいかなかった部分が、十分に編成されていなかったという評価になったのではないと思われる。「24 家庭学習の習慣が身につけている」の2.8は教員も、生徒に学習習慣を身につけさせるための指導に苦慮しているところであり、引き続き課題として捉えていくべきところである。「23 総合的な学習」については、去年非常に数値が上がり、今年も更に上がり3.4であり指導体制が確立されつつある。

生徒指導部、進路指導部、環境護憲部、渉外部、図書部、事務部の項目は3.3を超え、高い評価となっており著しく下がっている項目もない。

学年について、担任が答える項目の「105 ホームルーム活動の時間を効果的に活用している」の評価が0.3下がっている原因は、担任として学校行事、学年行事、アンケートなど色々やらなければならないことが多く自由が効かないところがマイナスの評価になっているのではないかと考えられる。

生徒の意識調査結果。各教科の指導について、1年生・2年生・3年生と比較していくと、最初は高校の授業・指導に戸惑う部分があり、評価はなかなか上がらないものだが、学年を経るに従って評価は上がっている。4の所属する学年についての感想では、学年が上がるに従って満足度が下がっているところが気になるところである。全体としても3.79で昨年度を下回っている。クラスについての項目では、3年生が著しく低い状況になっている。クラスに対しても「エ やや不満」、「オ とても不満」が多く、下がっているのは、日々のクラスの活動・経営を振り返って見たとき、担任からは男女の仲が良くない、うまくまとまっていないという意見もあり、特に3年担任はクラス経営に非常に苦慮している。この結果を踏まえ、次年度の学年の経営、もしくはクラスの経営に活用して行ければと思う。

保護者に対する学校評価アンケートの結果。アンケートは、平均が3.0を切る項目もあるので、それについては真摯に受け止めていかなければならない。全体的な意見の分量に着目すると、1年生が一番多く、2年生、3年生と学年が上がるに従って少なくなっている。これは、学年が上がり、学校の教育活動に参画し理解を深めていけば、意見は少なくなる。特に1年生の保護者は、学年のPTA集会への参加率が、例年に比べ少ないが、保護者に学校行事や企画に参画してもらえるような努力をしていかなければならない。

◆分掌年間評価等（教務部・生徒指導部・進路指導部）

<教務部>

（1）確かな学力の育成について

授業が一番大切であり、授業時間の確保に努めている。出張やその他の場合は授業を振り替えて確実に授業を行うことを、今年1年間徹底した。視聴覚機器に関しては、先生方の活用の場面が年々増加していることから、その拡充や整備・管理に努め、ICT機器を活用し

た授業、講演の推進及び支援をしていきたい。総合的な学習・探究の時間については、本校では探究活動推進プロジェクトを設けており、プロジェクトが中心となって生徒の主体的な探究活動を推し進めている。学年間で情報を共有しながら、その反省を次年度に繋げていくことで、年々ブラッシュアップされた活動が行われている。

(2) 研修体制について

9月に校内授業見学週間を設けて自分の教科と他の教科の授業を2つ以上参観した後、授業の感想や意見等をワークシートに記録・提出し、後日授業の担当者と参観者に配布するという形で行った。

(3) 円滑な校務運営について

高校では令和4年からの新教育課程がスタートし、来年度、現2年生からの調査書の形式が変更になるので、新しい成績処理システムへの切り替えが今年度から行われた。また、新教育課程については原案を作成して、来年度には各教科で検討してもらう予定。奨学金に関しては、毎年希望される家庭が多くなってきており、今年も約150名が日本学生支援機構の奨学金に申込んだ。保護者に対して2年生のうちに、修学旅行の説明会において奨学金の説明を行っており、早い時期から広報活動をしている。

(4) その他

夏休み中に行われた中学生の体験入学の参加者は1024人で、ここ数年は1000人以上が続いている状況である。この体験入学は生徒会執行部の生徒が学校生活について毎年発表しているが中学生には大変好評なので、今後も同じスタイルで実施したい。

<生徒指導部>

(1) 基本的な生活習慣の確立

基本的な生活習慣に関連して、挨拶の元気がだんだん弱くなってきている。登校指導を一層充実させたいという思いから、今年度は他分掌の教員にも、朝の朝会・打合せよりも早い時間に玄関に立って、生徒に声かけをする機会を多く持つことができた。②の遅刻について、若干減少しているが、延べ3桁の件数なので多いという印象を持っている。③の下校時間が徹底されていない問題は、先ほどの教員評価でも評価2が多く、引き続き問題としてあげられている。直接担当している部活動の顧問の協力を得ながら、また、ホームルームでの呼びかけも併せて、こちらの項目の対策を改めて取っていかねばならない。⑤スマートフォン・携帯電話について、校内でのルール違反によって指導を受けた生徒は40名で昨年度並みである。学校行事の時だけでも使いたいという希望も生徒の中にあったが、どうしても我慢できず使用したところがあるのではないかと捉えている。

(2) 個人指導の充実について

②について、本校では弘前医療福祉大学の小玉先生に学校カウンセラーをお願いしている。色々な悩みを抱え、学校不応等特別な指導・相談を要する生徒延べ10名、実数5

名が、保護者、教職員を含めて、カウンセリングをして頂いている。適宜、生徒の状況を捉えて、今後も学校カウンセラーを活用していきたい。③について、問題の早期発見・早期対応の一つの手段として、学校生活アンケート、心理検査の活用をしている。情報収集のツールの一つとして使いながら、生徒に関しても問題を常に教職員で共有していくような試みを整備している。この学校規模にも関わらず、きめ細かく行っていることは、本校の他校に誇れる強みの一つではないかと考えている。

（３）事故・非行の防止について

①自転車の事故は、今年大変増加し前年比プラス８件で、自動車との軽い接触や自転車同士との衝突、歩行者との衝突など１４件となっている。幸い、大きな怪我につながるものは無いが、自転車の乗り方に関しては、これまで以上に注意喚起が必要である。③について、今年度、特別指導を行った件数が４件あった。全てインターネット・スマートフォンを介したトラブルであり、今一度スマートフォンに関する指導を充実する必要がある。

（４）生徒会活動の強化（自治意識・リーダーの育成、部活動の活性化など）について

生徒会活動、部活動等に関して、進学校という特性上、学校行事は１学期に集中している。３年生の事を考えて、後半は受験指導にシフトする関係から、大きな学校行事は全て夏休み前に集中するため、生徒の負担軽減が今後考えていかなければならないテーマである。行事に関しても見直しが必要になってくる。

<進路指導部>

（１）連携した指導体制の確立について

アについて、ほぼ例年通り行事をこなすことができた。イの外部セミナーを活用したり、オープンキャンパスの案内等は、掲示板を活用したりしながら情報を整理して提供することができた。学習指導対策として授業改善等を促してきたが、大学入試改革の二本柱である共通テストの国語と数学の記述式がなくなり、英語の学部試験の導入が延期となった今、入試を控えている高校２年生の生徒を始め、翻弄された形になっている。ただ、国の方で提示している思考力・判断力や表現力を身につけた生徒を育てるという方針は変わっていないため、今後も国の方針を考えながら生徒に不安を与えないように、情報収集し情報提供を行っていきたい。エについて、教員の指導力向上のために春３月から４月にかけて大学入試の問題研究、校内の小論文指導研修、予備校研修等を実施した。特に小論文指導研修については、本校では推薦ＡＯ志望者が非常に今年度増えたので、それに伴い全教員に生徒に関わってもらい、志望理由書等の指導を実施した。教員の共通理解がないと、生徒の指導にバラツキがでるために、今までは外部講師をお願いをして研修会を実施していたが、一昨年度・昨年度を踏襲して進路指導部が主幹となり研修を行った。また、来年度に向けて考え直さなければならないところもあるので、それを見据えて来年度も行っていきたい。

（２）キャリア教育の充実について

生徒に向けた進路講演会、保護者に向けた進路講演会、また、１年生対象の職業人講話、

2年生対象の大学模擬講義という活動を通じながら、生徒が自分で自分の進路について考える機会を持ってきた。職業人講話も大学模擬講義等も、講師の先生を色々な視点から考え、生徒が参加できるスタイルを特に多くの講座にお願いした。アンケート結果を見ても、とても有意義な模擬講義・進路講演会になっていたのも、来年度もこのアイデアを入れて実施していきたい。ただ、イのキャリア教育に対する教員への積極的な働きかけは、今年不足していたように考えられるので、次年度、職員研修等も考えて進めていきたい。

(3) 生徒・保護者に対する進路意識の高揚、進路選択へ向けた助言指導について

アについては特にPTAに対する進路講演会について、保護者には、子供の進路に対する意欲啓発等に役立てて欲しいという旨があり、学年と相談しながら講師を選定・依頼をしたが、土曜日開催であったため、保護者の仕事の都合もあり出席者が減っているという傾向が見られた。そのため、どのような工夫をすればよいのかを考える必要がある。ウについて、推薦・AOの志望者が増えてきているため、早期対策として2年生の3月位から説明会をスタートし、様々な指導を行っている。志望理由書の指導はもちろん、集団討論やプレゼンテーション、ワークショップ、面接指導も計画的に実施した。今年度は1・2年生の意識付けのために、3年生のプレゼンテーションやワークショップに参加させたので、これからもこの形を踏襲して、低学年からの意識付けを進めていきたい。

(4) 情報提供について

アについて、今年度春から1・2年生の生徒玄関に大きな掲示板を設置し活用している。1・2年生は探究活動等で個人の課題研究があるが、その課題研究の参考になるような大学のセミナーや外部団体のワークショップなど、進路で選別しながら生徒自身が申し込みできるような形で提供できているので、今後もこのような形で情報提供を進めていきたい。イについて、進路指導部では様々な資料や問題集、赤本を買い揃えている。冊数も増えてきたので、古い書籍のうち必要な物と必要でないものを見極めながら次年度処分して、使いやすい状態にしてきたい。エについて、大学入試改革が進められているとはいえ、まだまだ不安定なところもあり、今後どのように見直されていくかを常に注視しながら柔軟に対応できるようにしたい。

◆質疑・応答、意見交換等

<大学教授>

今年度初めて評議員となった。その間、授業参観も参加し、生徒が主体的に学んでいるという印象を持った。先生方の板書も丁寧で工夫して、上下左右をうまく使っているという印象がある。これから、探究で求められる問題解決能力は大学としても学ぶ点がたくさんあると思うので、今後とも交流を深めいきたい。

<有識者>

昔の学校からは考えられない程、色々な問題を考えなければならない状態になっている。その中で、中央高校が津軽一円の地区の中で評判が良い学校の筆頭に上がっていることは、

一般の人も話しており、自分の子供が高校生ではなくても、雑談の中で聞こえてくる。そういう点ではプレッシャーに感じる点もあるのかもしれないが、伸び伸びとやって頂けるように、学校外の部分から応援できることがあればと思っている。例えば、弘前高校よりも弘前大学に入った人数が多いという新聞記事が出たとき、中央高校は非常に良いみたいだと周りから見られている。実際に中で働いている先生方は大変だと思うが、引き続き何か力になればと思っている。

<同窓会役員>

同窓会常任委員というだけで、この場に参加して3年経つ。先生方、父母の方々のご意見を伺って、最近の学校の在り方になかなかついて行けず、評議員会に参加しても意見を述べるどころか自分が勉強させて頂いた。今回、3年の任期が終わるが、同窓生として、同窓会として偉大な先輩方と共に、バックアップしていくことになると思う。

<後援会理事>

父母からのアンケートに対する答えはどこかに出ているか。あくまでも集計して、先生達の中だけでどうしようかと考えるだけなのか。保護者に対して、これについてはこう考えていきます、変えていきますと発表する場はあるのか。

<校長>

前任校では、教頭として回答を考えて、何らかの形で発表した経験があるが、本校の場合、私の知る限りでは出していないかもしれない。目に見える形でこの質問にはこの回答、としては出さず、翌年度の学校経営や取り組みに生かす形になっている。目に見える形ではないので、直っている部分もあれば、まだ直っていない部分もあるかもしれない。発表や公表という観点では弱かったかもしれない。

<後援会理事>

親とすれば、自分が質問したものに対して、どうなったのかという思いは実際にあるので、発表する場はホームページで良いので、あった方がいい。「学校ではこういう感じで考えています」という形で良いので、そういう所を更新していけば、ホームページも父母の方々が見ると思う。父母の参加率が上がらない件について。その都度、ホームページ上に文書を出して、1年生の父母が集まったときにホームページに載っていますということを伝え、ホームページを見る癖をつけてしまえば良い。このことは毎回この場で話していることであり、毎回話しているということは、結局改善されていないということだと思う。私は若い頃に子供が生まれたので、子供達は高校を卒業してしまったが、ちょうど私たちの年代の子供達がこれから受験で入ってくる。弘前高校へ行こうか、中央へ行こうかという話を聞く程、中央高校は人気が高いので、先生達には頑張って頂いて、良い学校を作って頂ければと思う。

<PTA会長>

評議員1年目であるが、PTAに関わって3年目ということで、この学校に3年間関わってきた。今年になって生徒から挨拶をしてくれることが少なくなったことが、気になっている。今までは歩いていると、生徒の方から声をかけてくれていたが、今年は元気がない。こちらから声をかけると返ってくるが、向こうから声をかけてくれることが少なくなったと感じる。また、ホームページの意見がたくさん出たが、親から見て欲しい情報がそれほどない。もう少し親が欲しい情報を提供できるよう、内容を充実してもらえればありがたい。

◆校長謝辞

お忙しいところお越し頂きありがとうございます。謝辞ということで、何を言おうかまとめながら考えていたのですが、まず、色々な挨拶で出てくる枕詞のようなものが「社会の急激な変化」とか「少子高齢化」、「課題を抱えている」ということで、本校もその影響下にあると思います。特に、文字通り社会の急激な変化というのでは、中国で肺炎が流行ったことが、まさか経済など様々に影響するなど思いもよりませんでした。遠い国のことだと思っていたことが、実は我々の身近なところで、日本の経済にまで影響を及ぼしており、課題だと思います。課題と問題の違いとは、問題は悪いこと、課題は克服することで良いものになるものだと思います。今、ご意見として、家庭への情報提供の在り方、ホームページの充実に関するもの、アンケートへの回答が知りたいなどご意見を頂きました。全てを明日から改善という訳にはいかないものもあるかもしれませんが、少しでも良いものにして、学校をよくしていきたいという思いはあります。先程来、本校の評判の話がありましたが、もうすぐ本校の最終志願倍率が出ます。聞いたところによると、青森県教育委員会では11月に出される第一次志願倍率を最も重視しているようです。11月、1月、2月と回数を重ねるに従って、落ちたくなければ倍率の低い高校へ志望を変えるよう調整はあります。その点、11月の倍率が受験生の第一志望であり、純粋にここに行きたいという生徒の気持ちの表れであると考えています。色々な説明の時にも使う数値です。その中で本校は、青森県内の普通科高校の中で、一番倍率が高い高校でした。この地区の中で人気の高校なのだと感じています。これは、良いことでありながら、裏を返すと、入学してきた生徒をどのように育て、子供達の進路希望を達成させるのかプレッシャーでもあります。弘前大学だけが大学ではないので、それ以外のどこの大学であれ、本人が、これをやりたい、将来これになりたい、だから、この大学へ行く。そのために弘前中央に入り、学力をつけ、その他色々な経験を積んで、力をつけていってもらえればと思っています。

最初に申しあげましたように、開かれた学校として、地域の皆様方、評議員の皆様方、あるいはPTA、後援会、同窓会の皆様方のご意見を取り入れながら、地域に支えられる学校になっていきたいと思っていますのでよろしくお願いします。今年、120周年です。前校長が「不易流行」と言っていました。新しいものは取り入れながらも古いものは残していくという姿勢で、これからも頑張りたいと思います。どうぞ、よろしくお願いいたします。本日はお疲れ様でした。